問合先　財政課（☎76 - 1190）

ほなどる

財務４表を公開します

市の決算は、歳入と歳出の収支会計で表されており、現金の動きが分かりやすい反面、保有している資産や借入金などを含めた財務状況が分かりにくいと言われています。

そこで、企業会計的な視点で、市の財務状況が分かるように、小牧市の全ての会計と、土地開発公社、スポーツ協会、都市開発株式会社、こまき市民文化財団および４つの一部事務組合などを含めた会計で財務４表を作成しました。

Check!

財務４表とは

①貸借対照表
②行政コスト計算書
③純資産変動計算書
④資金収支計算書

これら４種類の財務書類のことで、「資産」や「負債」の状況が把握しやすくなり、より多くの財務情報を市民の皆さんにお知らせすることができます。

①貸借対照表

住民サービスを提供するための**資産や**返済しなければならない**負債が年度末時点でどれだけあるのか**などを知ることができます。

資産　5,696 億円
市が所有する財産の内容と金額で、行政サービスの提供能力を表しています。

【内訳】
- 事業用資産　1,484 億円
  庁舎、学校、施設など
- インフラ資産　3,522 億円
  道路、河川、上下水道など
- 物品　78 億円
- 基金　256 億円
- 現金預金　214 億円
- その他　143 億円

負債　889 億円
借入金（地方債）など、将来世代の負担で返済していくお金です。

【内訳】
- 地方債等　408 億円
  地方債および１年内償還予定地方債など
- 退職手当引当金　106 億円
- その他　376 億円

純資産　4,807 億円
既に支払いが済んでいる資産です。

②行政コスト計算書

資産形成につながらない行政サービス（福祉サービスやごみ収集など）の**経費と**、財源となる使用料や手数料などの**収入**を知ることができます。

経常費用（行政コスト）1,296 億円

【内訳】
- 人にかかるコスト　202 億円
  （職員の人件費など）
- 物にかかるコスト　397 億円
  （物品購入、光熱費、減価償却費など）
- 社会保障費などのコスト　673 億円
  （福祉サービスや子育て支援、生活保護などの社会保障給付、各種団体への補助金など）
- その他のコスト　24 億円
  （支払利息など）

経常収益　257 億円
行政サービスの利用で市民の皆さんが直接負担する使用料や手数料などです。

臨時損益　2 億円

純行政コスト　1,041 億円
経常費用から経常収益を差し引いた額（純経常行政コスト）から臨時損益を加減した純粋な行政コストです。

③純資産変動計算書

純資産が１年間でどのように変動したかを表しています。

前期末純資産残高 4,780 億円 → 当期変動額 +27 億円 → 当期末純資産残高 4,807 億円

当期変動額
27 億円の増加

国や県などの補助金が増えたことなどにより、財源が純行政コストを上回ったことが主な要因です。

税収など	＋ 490 億円
国や県などの補助金	＋ 566 億円
純行政コスト	－ 1,041 億円
その他	＋ 12 億円

④資金収支計算書

行政活動を資金の流れから見たもので、**会計年度内における資金の増減内訳**を表しています。

前期末現金預金残高 238 億円 → 当期増減額 － 24 億円 → 当期末現金預金残高 214 億円

当期増減額
24 億円の減少

業務活動収支	＋ 63 億円
投資活動収支	－ 65 億円
財務活動収支	－ 24 億円
その他	＋ 2 億円

投資活動収支のマイナスは、中央図書館やこまきこども未来館の建設などにより、公共施設等整備費支出が大きかったことが要因です。

借入額より地方債の返済額が上回っていることを意味しています。

※「－」はマイナスの意味
※各表中、表示単位未満四捨五入の関係で積み上げと合計額が一致しない場合があります。

財務４表からわかること

健全

市民１人当たりの資産と負債

資産　375 万円（対前年度＋２万円）
負債　59 万円（対前年度－１万円）

資産については、中央図書館やこまきこども未来館の建設に伴い事業用資産が増加したこと、負債については、新たに元金償還が開始した地方債の増加より過去の地方債の償還期限終了による減少が大きいことなどから、地方債残高が減少したことが主な要因です。

市民１人当たりの行政コスト

85 万円（対前年度 +12 万円）

行政コストは前年度より増加しましたが、これは、新型コロナウイルス感染症に係る国の緊急経済対策として実施された特別定額給付金支給事業により、補助金等が増加したことが主な要因です。

社会資本形成の過去および現世代負担比率

96.0％（対前年度－ 0.4 ポイント）

算式 ＝ 純資産 ÷（事業用資産 ＋ インフラ資産）

小牧市は社会資本のほぼ全てをこれまでの世代の負担で形成しており、**将来の世代への負担を抑え、負担を先送りしない健全な財務状況であると言えます。**

健全ポイント

負債比率

18.5％（対前年度－ 0.7 ポイント）

算式 ＝ 負債 ÷ 純資産

純資産に対する負債（借入金など）の割合を示すもので、この指標が低いほど財務状況が健全であると言えます。小牧市は**全国の自治体の中でも極めて良好な状態です。**

健全ポイント

市の財政状況（財務４表）についての詳細はホームページで公表しています。